

「トシゴヤ」 アクソノメトリック



階段

建物の中央を貫く鉄砲階段。ライトウェルとしても機能し、トップライトの光を各部屋に落としている。



リビング

北側の吹抜け部分は、3,624mmの天井高をもつ。近隣建物に囲まれ採光の難しい位置にあるが、吹抜けや階段蹴込みからの光で補っている。

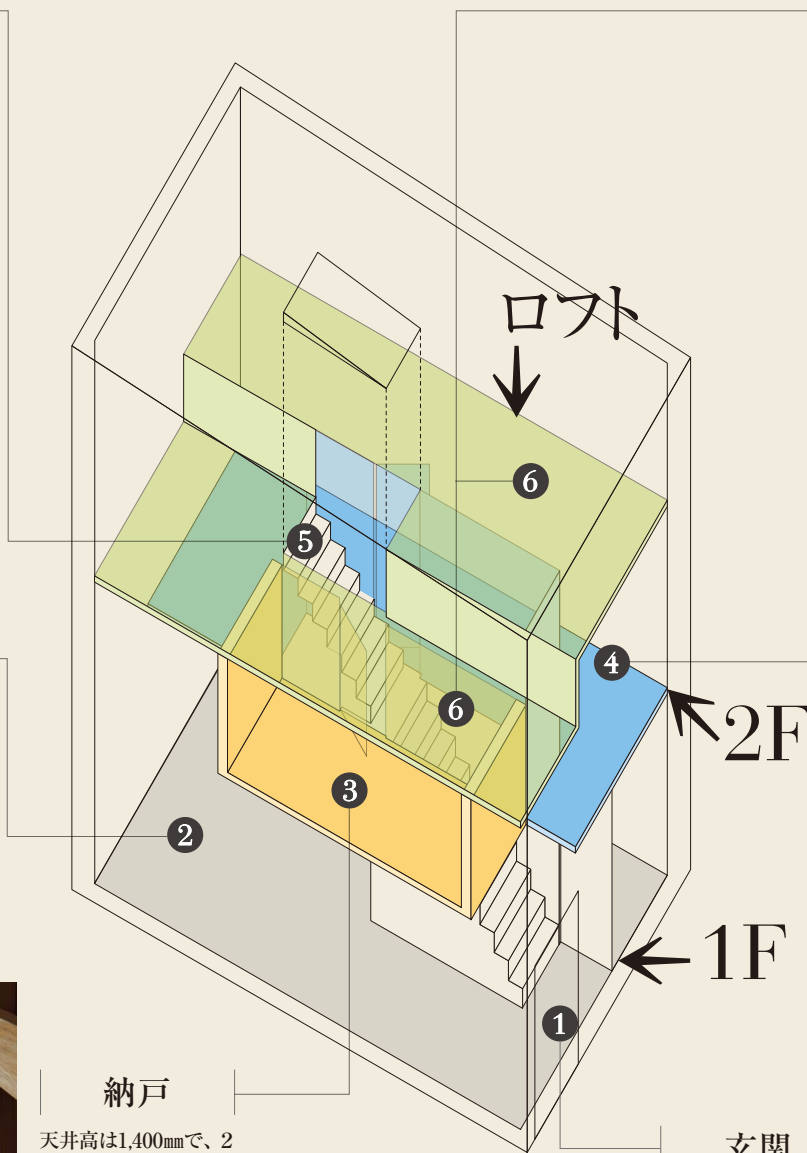


納戸

天井高は1,400mmで、2階階段をはさんで個室1と向かいあっている。

玄関

ガラス引き戸と吹抜けの開口が内部に自然光を導く。



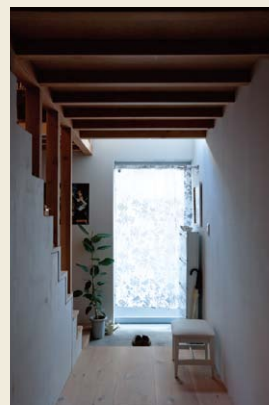
個室2+ロフト

天井高が1,400mmのロフトは、2Fの床から800mmのレベル差がある。「姉の部屋」。



個室1

6mの奥行きをもつ細長い部屋。階段の途中から滑り込むように入る。「弟の部屋」。



“Urban Hut”

2階建てで最大容積を得る空間構成となっている。外壁は、法規・工法などの条件から、可能な限り大きな矩形平面として立ち上げる。そして内法高さ1,400mm以下によりロフト扱いとなるスペースを、2階から上で断面的にかみ合わすように配する。2階では「納戸」と「1階リビング+玄関の吹抜け」、ロフトでは「個室2の上部レベル」が、その空間にあたる。全体で実質的に2.5層分の空間ボリュームが生まれた。またその構成により、建物中央にある鉄砲階段は、1.5階分の高さを上がるだけですむ。2階の踊り場も省略し、個室1と納戸へ直接アクセスさせることで、空間効率にすぐれた階段を実現している。